

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	25202
----------	-------

1. 開設大学	安田女子大学 文学部	開講場所 (キャンパス・施設)	本学
2. 科目名	日文の学びを知る		
	学問分野	番 号	11, 12 名 称 文化・文学；言語学
3. 担当教員	M. Kuhn (キューン・ミッシェル)；町 博光 (文学部 日本文学科)		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	令和 2 年 8 月 4 日 (火) 10 時 40 分 ~ 12 時 10 分；13 時 00 分~14 時 30 分 (90 分×2 回)		
個別開講日	1 回目 8 / 4	2 回目 8 / 4	3 回目 / 4 回目 / 5 回目 / 6 回目 /
5. 募集定員	定員を定めず		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>1 回目 着物と日本文学—『源氏物語』を読む・楽しむ・着る キューン・ミッシェル</p> <p>日本の衣装には、平安時代から文学をモチーフとしたものがあつた。『紫式部日記』によると、女性は和歌の内容を描く服を着ていた。江戸時代に、そのスタイルはもう一度人気となる。現代、好きなバンドやアイドルのシャツを着るのと同様に、江戸の女性は好きな物語を描く小袖 (着物) を着ていた。物語を描く小袖は現代に伝わっているが、そのデザイン集である「雛形本」も残っている。1687 年に『源氏雛形』という雛形本が出版された。この本の中で、文様は『源氏物語』の女性主人公を描く。女性の性格や特徴は文様の源泉となり、文様の色や花は女性たちの話に基づいている。</p> <p>今回の講座では、「若紫」の文様について勉強する。『源氏雛形』を読んで、光源氏の最愛の妻である若紫の文様の意味を探してみたい。</p>		
	<p>2 回目 方言研究を越えて 町 博光</p> <p>方言というと、訛の強い言葉、地方の変つた言葉、なくなっていく言葉といった見かたが一般的であろう。この講座では、そのような考えかた、見かたを変えていくための資料を提供するものである。方言には、その地に生きる人たちの文化や考えかたが色濃く反映されている。</p> <p>講座ではまずなぜ方言は文化を支えているのかを説明する。その後、具体的に方言 (兵庫県温泉町) を取り上げて、そこに込められた方言人の意図を読み解いていく。</p> <p>さらに兵庫県温泉町とインドネシアのタナ・トラジャ族の「牛の角の呼称」を材料として、日本人とトラジャ族の牛に対する考え方をみていく。牛の角には呼称が多く、またプラス評価とマイナス評価の両方に分けることができる。なぜ牛の角を細かく分けて呼ぶのか、なぜ評価をするのか。そこには「牛の角の呼称」と世界観・価値観とが密接に関わっているのである。</p> <p>この講座を通して、方言が言葉の文化を支えていることを理解してもらえれば何よりである。</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし		
9. 開講条件※1 あり・ <input type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数 (人) 定員超過の不許可は選考により決定		
	② 不許可・不開講通知日 (7 月 10 日 (金) 以前の開講科目は 3 月末まで / 7 月 11 日 (土) 以降の開講科目は 6 月末まで)		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと 特になし		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があつた場合は受講申込者へ通知します。